

THE
JAPAN
INTERIOR
DESIGNERS'
ASSOCIATION

JID

no. 65・67

1974. Oct. 25

昭和49年10月25日発行

目次

主集・新しい事業年度・九州特集	
これからの協会の在り方	1
デザイン・イヤーのインパクト	2
九州特集	3
委員会報告・組織図	8
かるてっと・だんわしつ	11
賛助会員紹介・編集後記	13

これからの協会の在り方

理事長 白石勝彦

ここ数年来、「協会のメリットとは」ということが話題になってます。

具体的に「協会員としてのメリットを感じていますか？」と問われた時、あなたはへと返答するでしょう。

理事長がこのような発言をすることは、大変不穏当なことだと思いますが、今回の総会で理事長の再任が決まり私としてもお引受けした以上、協会の存立基盤を明確にする意味からも、あえてこの問題をとり上げ、本年度の大きなテーマとして徹底的に究明していきたいと考えているからです。

「本会の正会員は、インテリアデザイン(室内設計)及びプロダクトデザイン(量産品設計)の専門家であって、委託者の依頼にこたえるに十分な資質、才能、経験、人格を保有するものである。」

これは当協会の「業務及び報酬基準」の冒頭にある正会員の憲章です。

われわれは正会員になることによって、自動的にこれだけの価値が与えられていることになっています。

このことは協会員としてのメリットの最大のものであると思っています。

しかしここで問題なのは、この憲章

はわれわれが制定したものであって、社会的に認知されたものでないことです。われわれ協会員の一人一人が今こそ本当に「専門家」といえるだけの内容を持っているか、本当に「信頼にこたえるに十分な資質、才能、経験、人格」を持っているのか反芻する必要があります。

この憲章を自己満足に終らせることなく社会が認めた価値あるものにするために、協会員全員が努力しなければなりません。

メリットは与えられるものでなく、獲得するものでなくてはなりません。

本年度の組織に「業務委員会」と「研修委員会」の二つが設置されたことの意義は、「業務」のあり方について考え、「研修」を積み重ねることによって、当協会が憲章に明記されている価値あるプロの集団であることを再確認し、この憲章を自他共に認める価値あるものにするためです。

当協会は、理事会や事務局のために存在しているのではなく、協会員全体のために存在していることを忘れてはなりません。

理事会や事務局は会の運営をスムー

スに進めるための組織です。わたしは協会のすべての事業の主体はあくまで委員会活動にあると思っています。

協会員全員が何らかの形で委員会活動に参加することによって、われわれの協会の事業を推進し、協会員としてのメリットを産み出し、われわれ自体がそのメリットを享受すべきです。

協会員のメリットは、協会員としての権利と義務とがはたされた時に獲得することが出来るものと信じています。

協会員には、会の運営に参加出来る権利と参加する義務があります。

単に会費を払っていれば義務がはたされたと思わずに、積極的に会の運営に参加することによって、より多くのメリットを獲得して下さい。

新しい材料・技術の情報も、デザイン界の動向も、現在の会報の情報量では充分にその役目を果たすことは困難です。各委員会のメンバーとして委員会活動に参加したり、研究会、見学会その他の集会に参加することそれ自体があなたのメリットにつながっているのだと思います。

それぞれの職能・職域によって協会員のメリットも異なります。それぞれの職能・職域にふさわしいメリットを産み出すべく、職能・職域別に委員会活動が行なわれることを期待します。

デザインイヤーのインパクト

正会員 榎田 均

’73 デザイン イヤーには 協会の皆様から絶大なご協力をいただき産業デザイン界が初めて迎えた大事業を無事終了することが出来ました。

私も帰国後直ぐデザインイヤー事務局に入り去る4月20日迄残務処理を行ない1年10ヶ月ぶりに製品科学研究所、製品性能部の古巣に戻ってきました。

戦い済んで我をとりもどし、イヤー事業の中で体験した数々の印象のうちからその一部をお伝えし、日頃のごぶさにかえさせていただきます。

その立場はデザイナー団体の位置づけに関し行政側からみた場合を会員として述べてみたいと思います。

(1) 補助金と手弁当

デザインイヤー事業には国庫より約5千万円、地方庁、万博、競輪等より約5千万円、計1億円に及ぶ補助金が支出され、これに見合う額を寄附金、登録料でまかない総額2億円近い事業費で行なわれたのですが、一企業の年間PR費が50億から100億円と言われている世の中で、2億円の年間事業費で為し得る限界もおおつと想定されるというもの、産業デザイン界に初めてついたこの補助金は行政面からみれば破格的な意味をもっています。

裏をかえせば、国の助成を必要とする各種の事業の中でデザイン関係事業は重要度、緊急度からみて残念乍ら私達の熱意とかビジョンも現段階ではそれなりにしか評価され得なかったと言えよう。

とはいえ例えこの1億円の金でも実施段階における使い方は、非常に厳しいもので(金というものは本来そうであるはずですが)国民の血税を正しく使うの原則から凡てが経理規定にもと

づいて運用されています。此の点で事業を早く、且つ効果的に処理しようとする各実行委員会と事務局との間でしばしばトラブルが生じました。

そもそも補助金に対する受益者は誰かの論争で、企業、デザイナー、消費者をめぐる行政側ではデザイナーであろうと言い、デザイナー側では消費者であり企業であると別れた。そんな事はどうしても良い様に考える方が多いと思いますが、本来補助金に見合う50%の負担額は受益者がもつ原則があり、それは金なり、労力的なり頭腦的なり何らかの形で協力し合って事業を完遂させる責任を負うことになるからです。

かくして出足が遅れ資金もないイヤー事業を推進するに当り、多くのデザイナー団体、関係者の無報酬手弁当型の協力体制が組まれましたが、企業体制の零細なデザイン業界では血の出る様な努力が払われたのも事実でした。

そこで国の事業であり乍ら「零細企業であるデザイン業界の奉仕の上に組まれたイヤー事業」と考えた人々からは「手弁当けしからん」との反発も出されたわけです。

後で振返ってみると、運営会の下に手弁当型の実行委員会を設けたがこの委員会は実行組織ではなく諮問組織であった方が実情に即していたと思われた。とは言え事務局体制の脆弱さの中では両者の折衷方式を取り事業の推進、展開に臨まざるを得なかったわけです。

(2) キマヂメなデザイナー

イヤー構想が練られている頃の我が国の物質文明の行きすぎ、脱公害、人間性の回復、精神文明の確立など誰しもばく然とは考えていたことをいち早くイヤー事業の論拠として採り上げ今こそデザインの啓蒙運動として展開すべきであるとの先見の明は当を得ていたと思われます。

このイデ－を展開させて行く上で具

体的な問題とかみ合せた場合、特に予算折衝、募金事業の面ではデザイナーの仲間内でのコミュニケーションと外部とでは著るしく差があり屢々混乱が生じた。

一般論として「デザイン」とは形と色の域を出ないとする人々と「人の心とものゝ世界につながる総合的な計画行為」と熱っぽく説くデザイン関係者の主張とで仲々見解が一致せず具体的な実行計画の作製や各種団体企業への募金活動では関係者が大分苦勞させられていました。

国民運動というような働きかけには仲間内のコミュニケーションを更に具体化し平易な言葉なりサインに置きかえて展開すべきであり、またそれを行なうのが最も得意とする業界であったはずで。とはいえ後半戦においてはこれらの面も軌道に乗り、新聞(19紙85件)TV・ラジオ(11局19回)雑誌(24誌39件)などマスコミの成果からみても多大な協力が得られた面は特筆されます。

話しは少し脱線しましたがデザインを通じて、関係団体は先ず実践を通じて社会的なインパクトを高めて行く必要があると思います。

従来、会員個々の努力は夫々に成果を挙げておられると思いますが、やはり協会としての組織的な解決なり、活動の域まで高まってこそ社会的なインパクトへの近道になると考えられます。

ともあれ、イヤー事業を通じ、補助金事業の運営のしかたを体験したこと及びICSID国際会議を通じ日本のデザイナーが世界的な視野の中で日本のデザインを見直すチャンスを得たことは大きな成果といえると思います。

社会的なインパクトへの反応は先ず上記の反省なり、活動の上に始めてあらわれて来るもので今直ぐ論ぜられるものでもないことを付記致します。

婚礼家具について

婚礼家具は2つ名前を持っている。もう1つの名前は収納家具と呼ばれている。この事を婚礼家具を考える出発点にすることは大変意味があります。

婚礼家具見本市を見たあるインテリアデザイナーが、どうしてあのような商品が売れ買われるのかまったく想像できないと感想をもらしたと聞きました。そのはずです。いままでインテリアデザイナーのデザインした婚礼家具は売れないというのが、メーカーの常識であったのです。そこでデザイナーのできるのは収納家具のデザインであるはず。その訳を身近な2、3の事例を例にとってみると、婚礼家具の取手に今もって、ついている“ふさ”についてデザイナーがどう説明できるのでしょうか？ 婚礼家具の置かれる住宅との関係を解説できるのでしょうか？ ツキ板の桐について……………しかしこの様な理屈ぬきに婚礼家具は今年も売れ、買れていくのです。

ここでいままでとられて来た家具の認識の変革が必要な時期が今日ではないでしょうか？

私は、家具を次の3つに分け問題を捉えてみたいと思います。

- 1 用の家具
- 2 オブジェの家具
- 3 象徴の家具

1. 用の家具について

いままで、人間生活を基にしてその道具としての家具という捉え方だけで家具のすべてハークしていた事は家具

の用だけを説明していたにすぎない様に思います。

収納家具これぞ用の家具の代表的なものであり、ID的手法で捉え商品計画ができ、人間工学もイス以上に大きなファクターとして家具が作られ、この様な家具が消費者にアピールする時期も、もう近づいて来ているのではないのでしょうか……………。

2. オブジェの家具

モダンアートと家具と結びつけた様なものを、この範囲で捉えることにより用の家具からはみだしたのも、生活を楽しむ一つの道具として積極的な意味を持たせることが出来る。イタリアなど実際生活と、どの様に結びついているのか興味深いし、又今後この分野のものがどの様な道を歩くのか見みたい。

3. 象徴の家具について

全国各地に天皇陛下がすわられたというイスがあり、日本の洋家具の研究上興味深いことである。ここでそのデザインはさておき、そのイスの意味するものは、すわるという用ではなく、象徴としてのものではないかと思う。婚礼家具とはその様な捉え方を必要とするものである。婚礼家具のデザインで一番大切なものは豪華さであろう。

用は極端に言えば関係ないのである。この様な捉え方で考えれば、やはり“ふさ”も必要である訳だし、その人の住む住居がいかに快かろうとそれとは関係なしに、4点、5点セットという一見豪華な家具が売場をうめるのであり、ツキ板の桐であっても日本人の持つ白木に対するイメージだけに頼って使用されている現状……………。この様なファクターを持つ婚礼家具を用の家具として捉えることこそ、大きな違

いがある。

これからの婚礼家具について

セレモニーの道具として考えれば、ちょうど婚礼の貸衣裳の様なものになるのではないかと考えています。発想の転換の必要性がとかれる今日、何十年か前なら、婚礼の時の衣裳を借りるなどという事は考えもつかなかった事が、今日では、セレモニーの道具として何の抵抗もなく、常識になっている事を考えると、婚礼家具を貸婚礼家具として、新しい商売が現われそうな気がしてなりません。

ここでもおもしろい現象の一つを考えてみます。貸婚礼家具と貸婚礼衣裳の共通点に豪華さという価値です。用の家具的発想で考えると、何かくだらないものの様であった事柄が、セレモニーの道具という発想をすることにより、ピタリとくるというのも婚礼家具の性格の一面を表わしていることになります。

次の方向として“変化していく家具”という考え方です。これは現在のユニット家具という様なものではなく、家族構成の変化に対応していくという基礎に立って商品計画されたものでありたい訳です。婚礼家具がセレモニーの家具から脱却して、あくまでも家具を購入する、スタートということが婚礼家具であって良いはず。

婚礼家具という言葉そのものも否定してしまう考え方があることも事実です。

私は、これからの婚礼家具を以上3つの方向で捉えていく事が必要ではないかと考えています。

諸先輩の叱正を仰ぎたいと思っています。

(正会員 菊竹清輝)

大川家具について

福岡県大川木工指導所 専門研究員 篠島良介

1. 大川木工業のおこり

大川は、家具の生産地としては、わが国で最も古い伝統と歴史をもっています。大川が初めて、木工と関係をもつようになったのは、神功皇后のころといわれていますから、もう1600年前のことです。それは神功皇后が三韓征伐を行なつての帰途、筑後川の河口にある若津というところに寄港し、船の修理や整備をさせたというのですが、このあと同地方には木船をつくる者が多くなり、しだいに木工業が盛んになっていきました。

この地方は有明海に面し、漁業が栄えたところですから、木船をつくったり修理する船大工が住みついたことは十分にうかがわれますし、また筑後川の上流には日田という九州最大の木材集産地を控えておりましたので、木材の入手が容易だったわけです。

しかし大川の“家具の生産地”としての歴史のページは、いまを去る430年前のこと、天文5年(1536年)榎津久米之介によって記されたのです。

久米之介は、戦国時代、足利10代將軍義晴の武将の一人である榎津遠江守の実弟でした。うちつづく戦乱によって、兄遠江守の戦死により久米之介は榎津家を継承し、城主となりましたが、戦争の悲惨さと愚かさを悟り、家臣の者10名をつれて戦乱から逃れ、遠く九州、大川へたどりつき、ここを安堵の地とすることにしました。

そして数10名の家臣たちの生計を立てるため、すでに船大工が盛んだったことから、木工職に目をつけ、その製作や販売を習わせることにしました。これが“大川家具”の誕生です。

2. 大川家具の育ての親、河内諒^{まこと}先生

大川が“九州の大川”から“日本の大川”へ、さらに“日本をリードする大川”へと成長してきましたのは、ある一人の偉大な指導者を得たという大きな幸運によるものでした。その人の名を河内諒といいます。

氏は明治40年、千葉大学の前身、東京高等工芸学校図案科を卒業後大林組をふりだしに白木屋、田川商工学校、ハルナ産業など転々とされ、終戦後通産省に入って九州工芸指導所工芸部長、熊本県工業試験場長となり、退官後はしばらく病氣静養の上、昭和26年大川に来住され「大川はいつまでも木工業の雑草地帯であってはならない」と業界の有志を説いて創造美術会を創設し、デザイン・塗装に思い切った新しい息吹をあたえられたため、従来の「田舎家具」の古い型を忽ち吹っ飛ばして斬新なデザイン、引手なしのタンズなど所謂大川調の新風を吹き込むことになりました。

氏の指導によって新風を吹き込んだ大川家具は、その後全国優良家具展、西日本展、その他各地の展示会で続々大量入賞の実績をあげ、その氣運にのって研究グループが各地に続出するという活況を見せ、東京、大阪、名古屋、北海道、その他全国各地へ新販路を拡大、大川家具はまさに時代の寵児として業界に「大川旋風」を捲き起したのであります。その原動力となった河内諒氏、その功績は大川木工の名声とともに讃えられるべきものであると考えます。

福島工業試験場大川分場が設立されたのは、この偉大な指導者、デザイン

ーが昭和33年に亡くなる直前で、こういった時代的背景のもとに生まれたのであります。

3. 大川木工指導所が業界に及ぼした影響と業績

昭和33年、20代の若い経営者層の研究会を作り、年2回の創作展を開催“夢のある家具”をテーマに創作意欲の指導啓蒙を図りました。

昭和34年、第1回大川家具新作展を大阪において開催、約30社の全出品デザインを当所にて担当、新材料(メラミン化粧板、ポリエス化粧板、ビニール合板、ハードボード)を意欲的にデザインに生かしたことが好評を受け、思いがけない大ヒットとなり、大川家具の大阪進出の足がかりとなりました。

昭和36年、生産と需要のアンバランスを解消し、また、加工工程の合理化を促進し、従来の柄組からダボ製造(大量生産方式)の普及を計るため、当所にダボ製造機と切断機を導入し、ダボ製造に関する構造、工程の研究を試作品により関係業界に提示し、講習会を開いてその普及を図りました。

昭和36年、当所にヒルデブランド人工乾燥機を設置し、乾燥試験をおこない適正乾燥法のデータを作成すると共に、その都度業界に公表し、講習会により人工乾燥材使用の重要性を指導普及しましたために、当所では業界からの乾燥試験依頼が続出し、なおこれが刺激となり、37年3月、大川木材乾燥(株)の設立となり、ますます人工乾燥材による品質の高度化が達成されました。

昭和37年、東京三越本店にて大川家

具ワンマンショーを開催、大川の有力メーカー28社を選定し、当所としては東京市場調査後に全出品者のデザインを担当しました。その結果、出品物も非常に好評で東京進出の足がかりと、さらに確固たるものにしました。

昭和38年、当所とS木工(株)の共同研究により、引違戸の溝なし構造を開発(特許庁の実用新案をうける)したところ、食器棚、下駄箱、書棚などの製品に大いに採用され、機能的に非常に掃除がしやすいという好評を得、大川家具の特徴となりました。

昭和41年から昭和45年にかけては、安い柔らかい軟質材に樹脂注入(フェノール樹脂)をおこない、木材の不均質性、吸脱湿性、ひずみなどの性質を制御して硬質材に変化することによって高級化を計ることを目的としたもので、木材の樹脂注入試験と家具部材への応用化研究をおこない業界への啓蒙普及につとめました。

昭和45年3月の第16回全国優良家具展で、どうしてもとれなかった最高位の内閣総理大臣賞を獲得すると共に入賞数の半数を大川で独占、大量入賞する快挙をなしとげました。

昭和46年には、熱意ある中堅家具業者24社により大川家具研究会「きじ車」が発足、新商品の開発、生産技術の改善、品質向上などに指導育成を計っています。

さきに結成され活躍中の大川家具研究グループに次ぐ、第2の強力な研究グループとして発展しています。

昭和48年、県内の5工試で工芸研究会を結成したのを機会に、従来単独でそれぞれ出品されていた方式を改め、福岡県の特産物を使った作品を共同で

作ろうということになり、私とそのチーフデザイナーを仰せつかって、第21回全国試験所出品展に県内に残っている地場産業製品をとり入れた和風居間セット、トータルインテリアを出品し新しいインテリアの方向性を打出したところ、全工試の注目を集め好評を得ました。これには、福島工試(竹製品)、農試筑後分場(敷物の川)、福工試久留米分場(久留米カスリ)、金属工試(筑前鋳物)を組み合わせました。

4. 大川家具産業の現状と問題点

わが国の家具産業も家内工業から飛躍的に発展を遂げ、ほんの10数年前には考えられなかったような“大企業”が全国各地に出現し、また箱もの生産地としては、大川、府中、広島、徳島、愛知、静岡、新潟、加茂、旭川と新旧の生産地が激しい競争をおこなっています。さらに外的条件としては資本の自由化、貿易の自由化、特惠関税の切下げ、円の切上げなどがあり、またヨーロッパ先進地の外国家具がかなり安くはいりつつありまして、これら輸入家具の攻勢に如何に対処していくか、今後解決すべき重要な課題でありましょう。

大川産地内でも、既に次のような問題がいくつかあります。

第1に家具工場の市外転出が相次ぎ、すでに40社が八女地区、羽犬塚地区および佐賀県側に転出したことであります。このことは当地域が地価の高騰、労働力不足によるもので、さらにこの傾向は強くなるであろうと想像します。

第2に資材不足と資材の高騰が深刻化しつつあることです。

第3に公害の問題(騒音、粉塵、臭気、汚水、残廃材)と零細企業対策があります。

第4には、これからの家具需要の動向であります。

大川の家具産業は、過去10数年来需要増加の安定ムードの中に成長してきましたが、数年前からはその様相はいちじるしく変化し、売手市場から買手市場と変化し、量から質へと移行するなかで、製品の多様化と多品種化傾向は家具デザインの一つの方向といえるだろうと考えます。

家具のシステム化、設備家具の動向に大川産地は視点を向ける必要があるし、開発研究態勢を整えるべきでありましょう。

むすび

私は“大川のよさ”を過去17年間業界と共に勉強し指導にたずさわって感じますことは、450年の伝統と歴史の中に脈々と流れている血筋をくむ匠たちが、真心をこめて大川家具の製造に魂をかたむけ、つくられていることであります。ただ単に歴史と伝統の上にあぐらかくことなく、常に新しさを求めて積極的に取り組み、わが国の家具産業をリードしてきました。とはいえ、けっして新しがりやでもなく古いものをもまた見直すという基本的な姿勢も忘れてはいません。あくまで大衆のための家具づくり、人間が快適に生活をするための数多くの種類の家具を作製提供することを目標に、きょうも、あしたも、またあさっても限りない前進をつづけるでありましょう。

レポート

九州民芸村

手を尊ぶべし

手は神の与え給える最良の
機具なり。機械を用ゆるも
可なり、されどそれに支配
せらるるはよろしからず、
人は神の僕たるも機械の僕
たるにあらず。

(柳 宗悦)



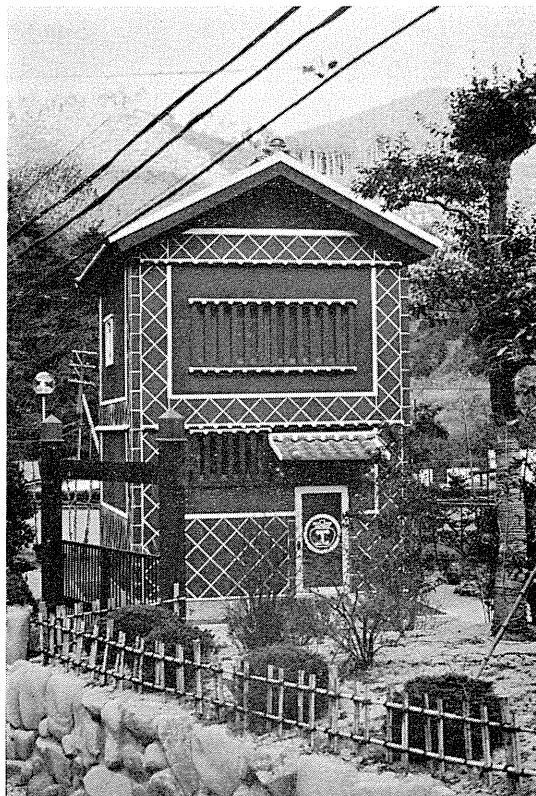
▲九州民芸村

日本古来の伝統工芸が、後継者不足のためすたれていくのを何とか防ごうと、西日本伝統工芸協会（北山徳彦会長）が建設を進めている“九州民芸村”は、前がきの“手を尊ぶべし”他三十三条の“工人銘”を残した民芸運動の推進者故柳宗悦氏の精神を継承して第一期工事を48年4月末に完了、更に研修館、工芸短期大学建設の第二期工事をめざしている。

北九州市八幡区大蔵大字大河内にあるこの工芸団地は、人々の心のふるさととして、又生活に密着した庶民のものを作るところから“民芸村”

と、村というネーミングになっている。民芸家具工房、民芸陶器河内窯の外に民芸生活館、北山資料館、民芸茶房など特徴のある建物が河内貯水池の上流ハイキングコース沿いの緑の山ふところに包まれた谷あい民芸村の名にふさわしく人々の眼を楽しませてくれる。

若い人たちに嫌われている徒弟制度でなくて、一般企業なみの給料と身分保障をすることにより、高年令化した工芸の技術者たちの後継者として育て日本工芸の伝統を守り続けて、現代にマッチしたものから更に将来の発展に



▲故伊東安兵衛氏設計 資料館 ▶

まで持っていこうという遠大な計画である。又見学者も受入れるが見学者と制作者が互に膝つき合せて話し合う場も設けて、庶民の願いが生かされるようなことも考えて見たいとは、北山会長の言であった。

民芸村のクラフトマン達は、生活を必配せずに制作に打ちこんでいる。そのために協会は資金と製品の販売ルートを確保するため、現在東京地区では三越、西武、松屋、小田急ハルク、関西地区では阪急、阪神、そごう、九州地区では井筒屋、玉屋、岩田屋、トキワ、ニック、その他各地の百貨店に、

それぞれ民芸コーナーを常設し、その売場数は24を数えている。

家具、陶芸、手織、漆芸が現在動いているが、染色、金工、和紙製作、ガラス細工などの技術者の入村を呼びかけている。又東南アジアからの研修生も仲間入りさせて木工や陶工の教育をしようと、その具体策実現のため北山会長は本年一月ビルマ、インドネシア各国を訪問した。この九州民芸村の発展は全国的な注目を集めることだろう。

『伝統工芸はこれから先も、人間中心の立場に立って発展するものである

ことを考え、実践教育の場としてこの村を中核に、多くのクラフトマン、後継者の育成につとめるべきで、そのためには早急に受入側の体制を整えるべき時です。通産省の民芸産業振興委員会ははじめ各都道府県にも要請しているんですが……』という北山会長の言も附記しておきたい。

会員諸兄で北九州地方においでの際は、どうぞお立寄り下さい。ご案内致します。

(正会員 堤 久 夫)

委員会報告・中部だより

会員の総意を

結集しよう

業務委員会

委員長 秋山修治

総会資料の49年度事業計画の最初にも述べられている通り、“協会のメリット”とは何かについて考えて行く委員会として発足した訳であるが、会員構成の多様化している現在、そのメリットと感ずるところも、多様化していると思われる。

しかし、大別すれば、協会を通じて受ける直接的なメリットと、協会を通し主義主張を明確にして行く事によって受けるメリットに大別出来よう。そして両者共社会に於ける当協会の地位と大きく関連しており、単に1委員会で、どうこう出来る問題では成し得ないことである。いかに多くの会員が参加し、確立するかであろう。これらの点は年一回行われる総会の例を見ても判る様に、ほとんどが委任状で、出席人数は、わずかである。これらの現象

は色々の事情はあるにせよ、会員の声を適確に反映させていない為であろう。業務委員会としては、このような現状を一新し、適切な活動が出来る様、まず手始めに、細部にわたるアンケートを作成する事によって効果的活動を行いたいと考えている。そしてその中から、職能団体としての確立を計って行為の一助になりたいと思う。

会員の社会保険の効率的加入や、諸権利の確立等具体的なものから、対外対内部の批判等を含めた、会員の意志の反響の具体的システムの確立等を計って行きたい。又社会的テーマを設定し、討議する事によって、対社会的な発言力を増大させて行きたいと思う。その為には、会員各位の絶大な協力をこの場をかり、お願いしたい。

内外の充実を

中部事業支部

48年度はデザイン・イヤー協賛事業としてICSIDはじめ地元デザイン関係団体、新聞社の協力を得て「現代に生きるデザイン講演会」(7/30 講師：栄久庵憲司氏他)並びにデザイン関係団体懇談会の開催(7/30)及び恒例のニッポン・グッド・デザイン・ショー'73へ服飾、フラワーデザイン関係団体との合同出品(10/6~13)をはじめ講演会「最近のヨーロッパの色彩について」(9/21 講師：山崎幸雄氏)、研究会「改良木材とその利用について」(10/23 講師：浅野猪久夫氏)、「ヨーロッパのデザインをみて考えたこと」(11/29 講師：瀬十記夫会員)を開催。更に金沢方面への見学会を挙行(4/20・21)、江戸村を中心とした見学並びに石川県インテリア産業協会の会員との懇談会を通じて両協会相互の親睦を高めることができた。そして、機関誌「JID」の編集発行。以上が48年度の事業活動の内容である。前年度はデザイン・イヤーでも

あり、他団体と協力し合う形で事業活動を展開する機会が多かったが、種々の点で大いにプラスとなった。

本年度は協会の方針に沿って内部活動の充実を図るべく、当事業支部としては会員の総力を結集し活動を推進する計画である。

その頭初に中部デザイン協会、中日新聞社との共催にて「環境とデザインの講演会」(5/30 講師：清家清氏、竹内良知氏)を開催、約300名の来聴者があり盛会であった。次に8/23から10/11まで週一回2ヶ月間計16回による「インテリアデザイン研修講座」を開催予定。講師は白石理事長はじめ中部の会員15名が担当。

又10/6から13までニッポン・グッド・デザイン・ショー'74へ出品予定。更に、本年度の見学会は関西方面を予定し、この機会に関西の会員との交流を深めることができると考えている。

委 員 会 報 告

渉 外 委 員 会

委員長 三 宅 征 郎

昨年度はデザイン・イヤーの関係で会員の方々が個々に関係団体との交流をもたれたが、渉外委員会としてはイタリア家具使節団を迎えての懇談会を行った事を除いては皆無に等しく、この点、引きつづき渉外担当委員として深く反省し、本年は少しでも皆さんのお役に立ちたいと考えております。

本年度は主な課題として、特に外国諸団体の資料、情報の収集を行い、これら諸団体との交流等に直接利用出来る、何らかの機構をつくり上げて行きたい。これら情報、資料の集収については会員の皆さんの積極的な参加が必要条件です。この誌面からお願い致します。なお国の内外を問わず諸団体の資料、情報について提供していただけるものがありましたら事務局にでもお知らせいただけると幸いです。

会 報 委 員 会

委員長 尾 上 孝 一

1. 本年度の会報活動について
近年における当協会の会員数や会員構成の変動などを通して、益々、その会報の在り方が吟味されてきている。

たとえば、会員平均年令（正会員の34～35才）をとってみても当協会のもつ意味から何を訴えるべきかとの反省がくり返されてきている。そのためにも、本年度は会報の在り方を次のように集約して進行させてゆきたい。

① 協会の内部充実のための主集形式を準備してゆくこと。

たとえば、インテリア教育、インテリアの関連業務と協会員との関係など。

② 協会と外部との関連をよりこんでゆくこと。

とくに、他団体との交流や外国からのよびかけ等の交流活動など

③ より全国的な基盤をもたせるためにも、各支部特集を盛況にしてゆくこと。

とくに、各支部は責任編集のも

とに必らず一号は発行していただくことを原則としている。

つぎに、昨年度の活動の特長をあげますと、

① 研究報告特集号の発行。

従来からの願いを実行したわけで、これを恒常的につづけてゆきたい。

② 各支部の責任編集のすすめ。

③ 主集形式のすすめ。

これらを通して、会員に対するきめ細かい情報化活動から、明日の協会のあるべき姿へと皆さんのご後援、ご参加を期待しております。

出 版 委 員 会

内 堀 繁 生

(1)本年度の活動方針

1975年度会員名簿の作成。

(2)新名簿はB5版(150×210)程度の大きさを予定し目下検討中です。

(3)巻頭に日本インテリアデザイナー協会規約又は憲章（仮称）の掲載について理事会に提案中です。

(4)又広告協賛を有力企業各社にお願いしてゆく予定です。

見 学 委 員 会

関東事業支部

委員長 森 谷 延 周

第6回通常総会で今年度の事業方針は内部充実を前提とした会員共通メリットの生み出し、そしてインテリアデザインの本質的問題追求の2点がクローズアップされた。対外部に対する活動を重視しながらも、もっと会員相互の内部活動の充実という、もっとも妥当なところに焦点を合わせてゆこうというわけである。そしてその具体的活動のために運営組織機構も新しく改め

られた。このような背景の中で見学委員会はどうか。具体的なところは当委員会の検討を待つにしても、その目標は見学を通じて私達の専門分野にかかわる知識と技術の向上にあると思う。具体化にあたっては、プロダクト関係は新しい試みへの注目、インテリア関係は個人単位よりは団体単位の見学。いづれも個人で見学しにくいところを協会の立場より接衝し、見学可能となるところが候補となる。そしてインテリア関連産業との連携という意味から、賛助会員との相互協力関係を考慮した企画もよいのではなかろうか。また会員が直接のワーク

として取組んだ作品の内でも、公開のチャンスにめぐまれない好例のものを企画に採り入れてゆくこともよいと思う。

見学と一口に言っても、パブリックな性格を持つものは個人、個人が自由に積極的に行っているので、むしろ日常触れにくいところに触れてゆくことが望ましいと思われる。

いづれにしても、弾力性のある企画、新鮮さのある企画により、今年度の大きな事業方針に近づけてゆきたい。



(五十音順)

デザインの社会性

48年度の協会賞は、残念ながら協会員の中からは生れなかった。

しかし、岩瀬さんの長年の業績に対しては特別賞が贈られた事は僕等の世代にとっては一見物静かな紳士と映る岩瀬さんを、仕事の面で芯の強い情熱のある人なのだなあーと改めて見直す良い機会になり、非常に意義深いことだと思う。

協会賞の選考委員長、長さんの総括にもある様に、昨年度はデザイン・イヤーの行事に主力をさかれ、密度のある仕事が出て来なかったと言うのが、実感かも知れないが、インテリアデザイナー協会のメリットの問題と、資質の問題とのからみ合いで考えた時、自分の仕事も含めて何んとなく、体の中を空気が抜けて通っている様な淋しさを感じずにはいられない。

僕自身の仕事が、現代の人間生活に対応する空間について、どれ程の発言をして来たかと言うことに対する計り知れない反省の大きさと同時に、今この小さな日本で、ただファッションのよどみの中で、モダンインテリアの、そしてアンチックインテリアのイメージが堂々と資本の奴隷となって厚かましくも氾濫しているのを見ていると、この日本の文化的基盤のはかなさをつい悲観的に、そして絶望的に見てしまう。

この地球上の限りある資源を、もっとも有効に、叡智ある物づくりをし、より豊かな生活を形で表現し、現実化して行くのがデザインであり、デザイナーと言う職業なのだと思う。

先の会報に載った渡辺優さんの大衆のインテリアは、仲々味のある表現で面白かったが、少しひっかかるのは、

デザインは音楽のたとえで見た時の軽音楽と言った様に、軽インテリアで割り切れるかどうかと言うことである。

僕はデザインを考える時、どうしてもデザインの実用的な効用、社会的な効用、そして美しさの効用の3つのからみ合いで考えないわけにはいかない。

はっきりと、だれでもが確かめることの出来るのが使い易さの効用でありその肉体的な体験であり、美しさは、その物に感動する心をもった人達丈が知る心の体験である。

ファッションをつくり、刹那的に、衝動的に、時には、いたけ高に大衆を操るのは、デザインの社会的効用を逆手に使った一面ではないだろうか。

ほんとうの社会性の意味は、そのデザインで大衆が気楽にその時代を愉しめるデザインの効用にあるのだと思う。

僕達が、デザインを大衆の手の中に本当に定着させるのは、この社会的な効用などの様に他の2つの部分、実用的な効用、美しさの効用と組合せるかにあるのだと思う。その方法が上手があれば、真面目くさったデザイン論など少しも必要としないで、自然に美しい、実用的なデザインが大衆の中に入り込み、知らず知らずのうちにデザインの効用の恩恵を体験し、大切にする様になるのではないだろうか。

二年程前の協会主催の研究会で、パネリストの一人、渡辺力さんが、デザイナーは医者や、神父と同じ様に、天職なのではないだろうか。そのためには、その権利と義務を自覚しなければと話された事を時々思い出す。これは本当に意味の深い言葉の様に思う。これを別の面で見れば、どの様に高い医術も、どの様に心深い救いの思想も、その時代の大衆に理解され、高揚させる社会性をもたなければ、その時代の人々は救えないと言うことも出来

う。

こんな事を考えると、わが日本インテリアデザイナー協会の一員としても社会性の如何にも乏しい僕は、デザイナーとしても再び猛反省しなければならなくなって来るのだ。

今、家具のデザインで、日本でも大変な話題になっている大衆家具、イノベーターのスタンス家具は、二年程前に、スウェーデンセンターに初登場して僕等にショックを与えて以来、その成果は目ざましいものがあると聞いている。まさに、社会性をそなえた良い見本かも知れない。

あの椅子のデザイナーは、たまたま、スウェーデンの学生時代、三年下にいたヤン・ドラングルと、ヨワン・フルトであるが、ドラングルとは一緒に彼のサマーハウスへ行った事がある。全く活気のある若者だが、商才も人並でない社交性も持っていた。今や、大衆家具に徹した理念と商才を世界の市場にぶち込んでいる。日本の市場が、軽デザインだとか、純デザインだとか言っているうちに、またまた外国から、特殊のと言われている日本の社会性になかったデザインが入り込んで来てしまったと言えるだろう。

色々負け惜しみも言っては見るが我ながら歯がゆい思いだ。

もうすでに、外国だ、日本だ、などと言っている時代ではなく、国際的な市場の上に立って、何時、何処でも、チャンスがあれば、その社会に受け入れられるデザインが通用する時代なのだから当然のこととは思いますが、日本人として、日本の文化を考える時、やはりこれではいかんと思うがどうだろう。

グットデザインとは何か。すでに北欧では、大衆の時代は去っているが、本当に大家のためのデザインを我々は実現しなければならないだろう。

(広報担当理事 川上信二)

盛会だったブルーノ・マッ ソン氏を囲む会

9月11日（火）午後6時より都道府
県会館に於いて、当協会主催によるス
ウェーデンの国際的家具デザイナー、
ブルーノ・マッソン氏を囲む会が開
かれた。たまたまスウェーデンセンタ
ーで開かれたブルーノ・マッソン展
のために来日されたのを機会に、天童
木工、紅富士株式会社協賛により行な
った。当日はマッソン氏の希望によ
り堅苦しい講演会をさけ、座談会の形
をとって始められたが、彼はいきなり、
会場から若い人を選び出して、そ
れをモデルに日本人のためのイー
ジーチェアをデザインしはじめた。

床の上に敷かれた紙の上に乘せられ
たモデルの姿勢を直しながら彼独得の
エレガント曲線でアウトラインを創り
だした。勿論、雰囲気をつくり出す演
出だったけれど、これで会場がぐっと
盛り上がり参加者の代表の形で選ばれた
パネリストも気楽に彼の作品の魅力、
そしてデザインに対する基本的な考え
方とその実際について聞き出すことが
出来た。

夫々のパネリストの要旨を挙げると、
長大作氏は、マッソン氏の曲線
の魅力、森谷延周氏は近代デザインの
見本とも言えるデザインと技術、機能
との結びつきについて、菅沢光政氏は
実際の制作について、加藤帛子氏は何
はともあれ彼の椅子の軽さの秘密につ
いて、最後に西沢圭三氏は何十年にも

渉る市場性の要因について等である
が、会場からの質問にも答え、終始ユ
ーモアを混え、又40年来世界の第一
線デザイナーとしての自信から来る強
い信条を聴く事が出来た。

最後に豊口克平氏は閉会の挨拶で彼
に対する大きな共感を述べられこの会
をしめくくられた。

参加者は約250名、通訳はヨハンソ
ン・加代子女史、司会は川上信二氏、
尚当日パネリストとして出席予定であ
った清家清氏が都合で参加されなかつ
た事は残念であった。

（正会員 川上信二）

デザイナーの胸算用

世の中不景気風が吹荒れている。混
沌とした引締めムードの中で、1億総
ぐるみで「オロオロ」している。その
日暮しのデザイナーにとっては、何と
厳しい世相よと嘆いてもいられない。

好むと好まざるとにかかわらず、万
事「変身性」がものを言う時代になり
つつあり、一つインテリア関連の各産
業を見ても、多くの企業が多角化やあ
る種の安易さから進出を試みて来てい
るが、現在の悩みを露骨に表わしてい
るかのよう受留めることもできる。

そして、競合しあう小範囲の業種に
集中し、狙い所もまた同じようなもの
が多くあり、何かおかしさが込上げて
も来る。企業の悩みとも重なって、不
安感も隠し得ない混迷さが、デザイン
活動やコンサルタント活動に波及して
来ている。

（立前と本音との、レンジとアロアン

スをどの程度に見積り、企業サイドの
問題にどのように対処して行くべき
か、往々にして、デザイン以前の問題
に直面してみて、これらの深刻さを一
層感じている此の頃でもある。

環境が大きく推移して行く中で、よ
り以上に「粘り強さ」が要求され、ま
た一面で「おおらかな」協調性と環境
造りが要求されて来ているように思わ
れる。今や係数的感覚や表現で御し得
ない部分や、埋め尽せない部分を処置
して行く「便法」を見出す努力がなさ
れるべきで、「志向」や「思考水準」
の評価が、タイムリーであることと、
「高度の意志決定」と「強力な推進
力」との噛合いから生れるような気が
している。「期待される人間像」なら
ぬ「期待されるデザイナー像」といっ
たものを、漠然としたムード的な感覚
で要求されて来ているとも言える。

ある意味でデザイナーが、現実の環
境に「ドブプリ」と漬らなければ、本
来の職能としての業務に着手できない
問題が横たわっている。これは取りも

直さず、デザイナーの体質といったも
のを、一面で偏在させることでもあり
また逆に「息切れ」を起しかねない要
素を持っているとも言えよう。「キメ
のこまやかさ」言換れば、合成された
方策によって、「臨床的」に対処せざる
を得ないのではなからうか。

ともあれ、意識するかしないかにか
かわらず、外部要因からもたらされる
影響は日増しに強まるであろうし、多
くの志向も試みられるであろうが、い
ずれにせよ気の重い「長丁場」な状況
が続くものと思われる。

すでにデザイン環境の中に介在して
来たことではあるが、人さまざま、感
慨さまざま、行き着く所も定かではな
いが、想いを新たに、個々の状況をじ
っくりと見渡して見るのも、一考では
なからうか。

（正会員 諸富顯治）

賛助会員紹介

朝日木工（株）豊川工場

愛知県豊川市豊川町幾通り15

(05338) 6—4171

（株）コスガ

東京都中央区東日本橋2—15—4

(03) 862—6711

（株）天童木工東京支店

東京都港区芝浜松町1—19—2

(03) 432—0401

飛騨産業（株）

岐阜県高山市名田町1—82

(0577) 2—1001

富士ファニチャ（株）大阪支店

大阪市福島区上福島北2—89 淀川ビル3F

(06) 531—9740

ネコス工業（株）

横浜市戸塚区飯島町久保890—1

(045) 851—5761

古川工業（株）

大阪市大淀区中津浜通4—5

(06) 371—0849

（株）ハウトク

名古屋市中区錦2—15—22 協銀ビル

(052) 201—4101

フランスベッド（株）

東京都昭島市中神町1148

(0425) 43—3111

（株）オリエンタル中村百貨店

名古屋市中区栄3—5—1

(052) 251—2111

（株）大丸装工部

大阪市南区巖谷中ノ町38

(06) 252—0641

国際インテリア（株）

東京都豊島区南池袋1—18—21

(03) 983—9151

（株）モダン・ファニチャー・セールス

東京都千代田区大手町2—2—1 新大手町ビル

(03) 211—8351

日本総業（株）（エアボン）

東京都港区麻布飯倉片町10

(03) 582—3341

クラレインテリア（株）

東京都港区六本木5—2—1

(03) 403—9721(代)

（株）ホクサン

東京都江東区木場3—15—4

(03) 641—5111

（株）木利屋

東京都港区新橋3—6—7

(03) 503—1920

三好木工（株）

東京都文京区湯島4—9—2

(03) 813—5481

愛知（株）

名古屋市東区赤荻町3—8

(052) 941—6226

（株）コトブキ

東京都千代田区有楽町1—14

(03) 591—1311

（株）セミカインテリア

東京都新宿区西大久保1—392

(03) 208—0131

チトセ（株）

東大阪市玉串町東2—1—1

(0729) 62—1141

住江織物（株）東京支店

東京都港区西新橋3—23—1

(03) 433—4171

トーソー（株）

東京都中央区新川1—4—9

(03) 552—1211

長谷虎紡績（株）

大阪市東区横堀2—10

(06) 203—5921

藤井毛織（株）東京事務所

東京都中央区日本橋堀留町2—3

(03) 663—6631

内一商事（株）東京営業所

東京都荒川区東日暮里6—36—12

(03) 802—4471

（株）カワキチ

東京都新宿区西大久保2—211

新宿専門店会館 1F～6F

(03) 209—7001

（株）サンゲツ

名古屋市中区小舟町2丁目14

(052) 565—1133

アイカ工業（株）

愛知県西春日井郡新川町西堀江2288

(0560) 40—5311

東洋ゴム工業（株）

大阪市西区江戸堀上通2—5

(06) 441—3580・8801

富国（株）

東京都中央区日本橋小伝馬町2—2

(03) 662—1901

（株）高島屋

大阪市南区難波新地6—14

(06) 631—1101

（株）高島屋東京支店設計部

東京都中央区日本橋2—4—1 北別館

(03) 211—4111 内2157

（株）ニック（NIC）

福岡市中央区天神1—11—17 福岡ビル

(092) 721—8151

（株）ハヤミズ家具センター

東京都台東区下谷2—7—2

(03) 876—1111

揖斐川電気工業（株）建材事業部

岐阜県大垣市神田町2—1

(0584) 81—3111 内線368

（株）トップトーン

東京都葛飾区東四つ木3—44—15

(03) 692—9097(代)

（株）佐野紙芸インテリア事業部

京都府亀岡市曾我部町犬飼馬の上1

(07712) 3—0661～4

佐治タイル（株）

名古屋市北区山田西町3—106

(052) 981—9531

東濃陶器（株）

岐阜県土岐市駄知町1435

(05725) 9—3131

（株）アイ・エム・エス

東京都港区南青山1—11—38

(03) 402—1855

（株）日建設計

大阪市東区横堀2—38

(06) 203—2361

（株）カフアドハウス

東京都港区西麻布2—13—12 早野ビル

(03) 407—2428

（株）竹中工務店東京支店

東京都千代田区神田錦町1—9

(03) 294—2111

（株）ファースト東京支社

東京都港区赤坂4—1—32 赤坂ビル6F

(03) 585—2046

（株）商園

東京都渋谷区東1—26—26 富士ビル8F

(03) 407—8171

（株）小川商店

東京都渋谷区松涛2—18—2

(03) 460—5779

（株）川島織物東京営業所

東京都千代田区永田町2—14—2

山王グランドビル5F

(03) 580—4511

（株）東光堂書店

東京都中央区日本橋通1—7—6 中内ビル

(03) 272—1966

日本電気設備 (株)
大阪府東大阪市花園西町1-14-11
(0729) 61-6321

松下電工 (株)
大阪府門真市大字門真1048
(06) 908-1131

ヤマギワ電気 (株)
東京都千代田区外神田4-1-1
(03) 253-2111(大代)

ヤマギワ電気 (株) 各古屋支店
名古屋市中区新栄町6-9
(052) 931-2111

共同通信工業 (株)
東京都千代田区内神田2-16-13
(03) 254-1261

(株) 松坂屋
名古屋市中区栄三丁目16-1
(052) 251-1111

(株) 新宮商行東京支店
東京都中央区日本橋1-3-13
(03) 273-7841

(株) フジエテキスタイル
東京都渋谷区千駄ヶ谷4-7-12
(03) 403-3371

(株) アルフレックス ジャパン
東京都港区北青山3-5-6
(03) 403-5351

中央設備エンジニアリング (株)
名古屋市中村区笹島町1丁目223
(052) 582-8201

日本ビクター (株) デザイン部
横浜市神奈川区守屋町3-12
(045) 441-1291

内外木材工業 (株) 東京支店
埼玉県入間郡大井町亀久保1150
(0492) 61-3611

同社東京支店分室
東京都千代田区内神田1-14-8
長谷川第5ビル
(03) 292-3841~5

(株) 三平興業装飾部
東京都千代田区岩本町1丁目5-13
(03) 862-6161

共同印刷 (株)
東京都文京区小石川4-14-12
(03) 813-1111 (内線439)

(株) ハック
東京都文京区目白台2-9-3
小田急目白台マンション1203
(03) 945-1089・1789

鹿島建設 (株) 建築設計本部
東京都新宿区西新宿2-1-1
新宿三井ビル24F
(03) 344-2111

山田照明 (株)
東京都千代田区外神田3-16-12
(03) 253-5151

(株) 森 伝
東京都港区西新橋3-23-6
(03) 433-4421

新 加 入

(有) ビイジアルブレン
千葉県千城台西1-13-11
(0472) 37-6608

(株) 武藤精密
東京都板橋区熊野町43-14
(03) 956-5176

(株) 海 市
東京都中央区宝町1-3
(03) 567-3511

浅野産業 (株)
東京都千代田区鍛冶町1-10-10
(03) 256-8947・251-2587

MAAM INTERIOR
マーム インテリア
東京都港区西新橋2-7-4 森ビル20
(03) 591-8291・8292

寿屋木工 (株)
名古屋市東区山田東町1-35
(052) 721-0211

昭和エフキャスト (株)
福岡市東区箱崎4121
(092) 651-2663

ロイヤル (株)
名古屋市北区上飯田南町5-20
(052) 981-9521

(株) 西武百貨店家具装飾部
東京都豊島区南池袋1-28
(03) 983-0161 (内線3696)

西和インテリア (株)
埼玉県入間市狭山ヶ原松原108-15
(0429) 34-1101

(株) 北新合板製造所
東京都新宿区新宿2-8-1
新宿セブンビル4F
(03) 352-6201

ユニオン装飾工業 (株)
埼玉県大宮市桜木町1-154
(0486) 41-9861

日本板硝子 (株) 東京支社
東京都港区新橋1-8-3 住友銀行新橋ビル
(03) 573-0121 (内線240)

■今夏、協会主催の「能登めぐり」に参加し、初めての金沢、輪島などを訪れました。日本にもまだまだ良いところがあります。これを機会に、国鉄が怒号する意味でなく、せいぜい「ディスカバー・ジャパン」したいと思うところなのです。(光藤)

■会報後記6桁何を書いて良いか考える。皆さん雑感など大いにお寄せ下さい。又原稿の遅延が有り、早めにお寄

編 集 後 記

せ下さい。家宝は寝て待ての心境、納めることしきり、或日何とか出来上るらしいが、趣き有る会合でした。

(諸富)

■新年度も早や数カ月、もり沢山な事業も歩み出す。げに会員の期待をになつて、誰にメリットあるらんと。今や

秋、原稿かはた企画かの思案橋。酔いて頭かく今日の会。新たな衣更えをともた思案顔。会員諸士への糧なるか。

(尾上)

■デザインの本質とは何んだらうか。自分自身に問いかけている時、ブルーノ・マッソに接する。何も考える事はないじゃないか、思った通りやればいいんだと気がつく、しかしその実行が問題なんだ。(川上)

機関誌・J I D No.65・67 定価 200 円
昭和49年10月発行 印刷 広洋印刷 (株)
発行所 社団法人 日本インテリアデザイナー協会
(〒150) 東京都渋谷区神宮前2-3-16 建築家会館3F
振替・東京・76389番 電話 (03) 403-3649

発行人・白石勝彦 編集 社団法人 日本インテリアデザイナー協会 会報委員会
担当理事 川上信二
委員長 (関東) 尾上孝一 ●三宅征郎・光藤俊夫・山岸征史・長谷川由紀子・諸富顕治
(関西) 本田安治
(中部) 林寅正 ●八代美代子・宇賀敏夫・安藤清
(九州) 中川千年 ●香月寿一・堤 久夫

The Japan Interior Designers' Association

JAA-Bldg., 3-16, 2-chome, Jingumae Shibuya-ku, Tokyo, Japan.